



能登半島地震復興支援活動【2025年7月版】 ～地震発生から1年半の活動報告～

2025/7/17

Japan Football Association

能登半島地震復興支援プロジェクト

JFA



JFAでは、防災・復興支援委員会（当時）において、災害後の「復興」がよりよいものにしていくために、発生前からの備えと発生直後の行動の重要性について考えてきました。

能登半島地震においては、発生直後から被災地の自治体やサッカー協会からの情報を得ながら、被災地へのメッセージ発信や登録料免除・特別対応とあわせて、「能登半島地震復興支援プロジェクト」を立ち上げ、まずは学校再開のタイミングに合わせて必要となった「子どもたちのこころのケア」を多くの皆様のご協力をいただきながら開始。

トップアスリートが被災地の小中高校や園をくまなく訪問し、すべての子どもたちにスポーツを通じて災害時のストレスを緩和したり、将来への希望を持てる機会を設けました。

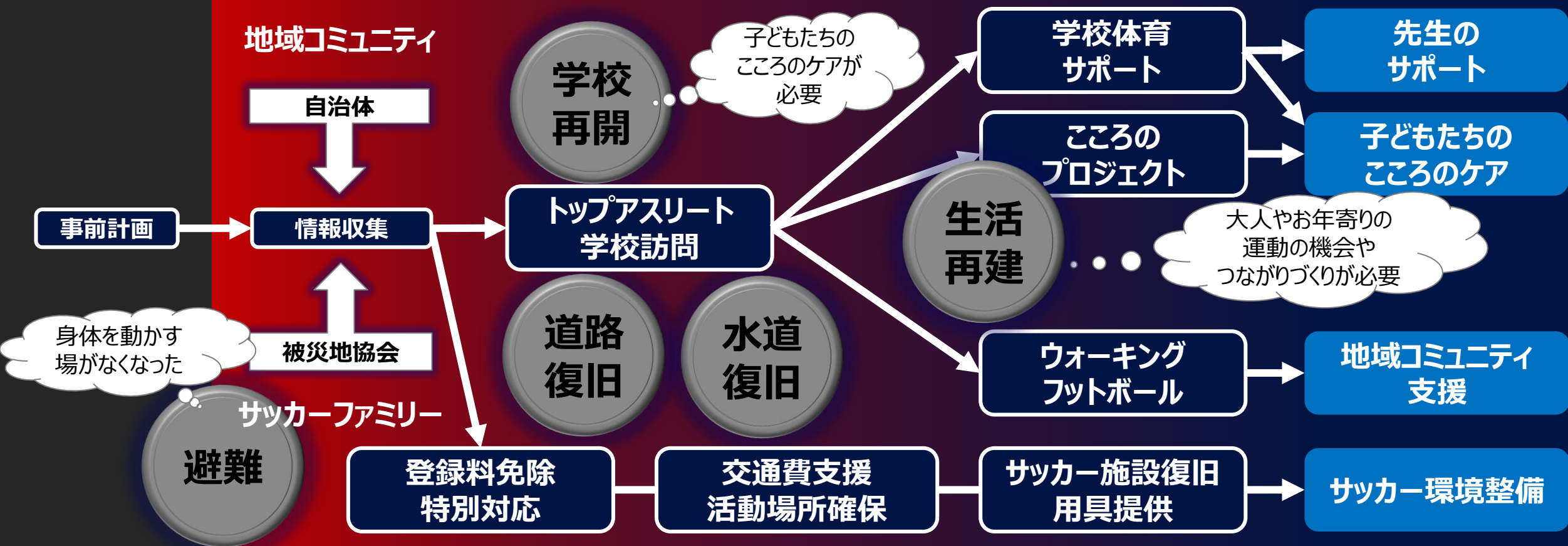
また、訪問先の学校の地域コミュニティが、避難所から仮設住宅へ移るときに途絶えてしまう課題に対して、だれでも一緒に楽しむことができるウォーキングフットボールのイベントを開催しました。このように、子どもからお年寄りまでサッカーやスポーツを通じた被災地の支援は、これからも長期にわたって必要となっています。引き続き、被災地へのあたたかい応援をよろしくお願いいたします。

発生前

発生直後

情報発信・復興支援マッチ・募金活動

復興支援



JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

サッカーの
普及

サッカーの普及に努め、
スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの
強化

サッカーの強化に努め、
日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。

社会の
発展への
貢献

常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々との
友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのビジョン

2024年1月1日
能登半島地震による被害

人的被害

死者592人 行方不明2人（5月13日時点）
※災害関連死含む（半年で死者103人増）

建物損壊

住家被害164,665棟（5月13日時点）

公費解体（災害廃棄物）

解体予定39,235棟 完了件数28,660棟
解体率68.8%（5月末時点 石川県のみ）

避難生活・応急仮設住宅

応急仮設住宅164団地7,168戸
（12月24日時点 石川県のみ）

学校、保育所等の被害

学校1,792校（5月30日時点）
児童福祉施設219施設（5月13日時点）

2024年9月21日～23日
能登半島豪雨による被害

死者 17人 住家被害1,761棟
（12月24日時点）



JFAサッカーファミリー
復興支援金



現在までにお預かりした支援金

87,425,856円

2025年6月末時点



JFAパートナーとの活動

日本赤十字社への義援金拠出

5,000,000円

2024年1月理事会決議

活動

JFAが被災者に対して直接実施

2024年度～26年度の計画

約7,000万円

- ・子どもたちのこころのケア（アスリート訪問）
- ・JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の実施
- ・学校体育サポート
- ・その他、被災地における復興支援イベント開催や被災者の各種イベントへの招待
- ・豪雨後の災害ボランティア活動への参加

支援

コミュニケーション

2024年度～26年度の計画

約1,300万円

被災地域の
復興を応援

支援の輪を
広げる

- ・石川県協会の活動の支援（登録料・交通費等）
- ・防災の日イベント開催（パートナーとの連携）
- ・地域産業の支援（ふるさと納税返礼品サポート）
- ・クラウドファンディングの実施
- ・チャリティオークションの実施
- ・被災地の現状を知ってもらう情報発信
- ・支援いただいている方々への情報発信
- ・豪雨後の情報発信、支援呼びかけ

施設整備・用具提供

2024年度～26年度の計画

約1,500万円

- ・サッカー施設復旧支援
- ・ミニゴール、用具等の配布
- ・豪雨災害後の生活物資等の提供

数字で見るJFAの復興支援活動

2024年1月～2025年6月の実績

子どもたちのこころのケア

アスリートによる学校・園への訪問

153回 12,495人

訪問したアスリート のべ574人

エースバーンの参加 15回

学校・園への訪問に関連して...

近隣の高齢者福祉施設等への訪問 10回

訪問後の災害ボランティア活動 6回
(2024年9月豪雨災害後)

現地での移動距離 (主に金沢～能登半島各地)

約 18,400 km

青森～鹿児島 (約1,900km) の約5往復

コミュニティ支援

JFA・キリン ビッグスマイルフィールド

ウォーキングフットボールイベント 7回 663人

夢キャンプ

JFA Partnership Project for NOTO
JFA夢フィールドでのSAMURAI BLUEとの交流

参加者数 120人

復興支援マッチ

MS&ADカップ2024 なでしこジャパン vs ガーナ女子代表

観客数 9,648人

支援物資の提供

飲料の提供 約 600人分
(豪雨災害後の緊急支援)

被災者へのウェアの提供 約 3,000着

訪問園へのミニゴールの提供 約 100セット

訪問園でのスターターキットの提供 約 2,000セット

避難所等への缶詰の提供 約 2,000セット

文京区への招待

輪島市中学校のスポーツ交流・職場体験学習・夢の教室

参加した中学2年生 80人

多くのご支援により、様々な支援活動を実施することができました。
ご協力ありがとうございました。引き続き、被災地へのあたたかい
応援をよろしくお願いいたします。



子どもたちのこころのケアは、JFA防災復興支援委員会メンバーによる現地視察で自治体関係者等への聞き取りを行った後、地震発生直後から支援活動を行っていたNPOカタリバのご協力を得て能登町より開始。その後、JFA防災・復興支援委員会（当時）の国崎信江委員（危機管理教育研究所）を中心に、珠洲市、志賀町、七尾市の教育委員会と連携し、3月までに両自治体の当時訪問可能なすべての小中高校と保育所等を訪問し、オンラインで避難先の子どもともつないでこころのケアを実施した。派遣にあたっては、日本代表OB・OG会、日本財団HEROs、トップリーグ連携機構、ツエーゲン金沢などからトップアスリートを募り、JFAと日本財団で現地への移動を共同で担当した。

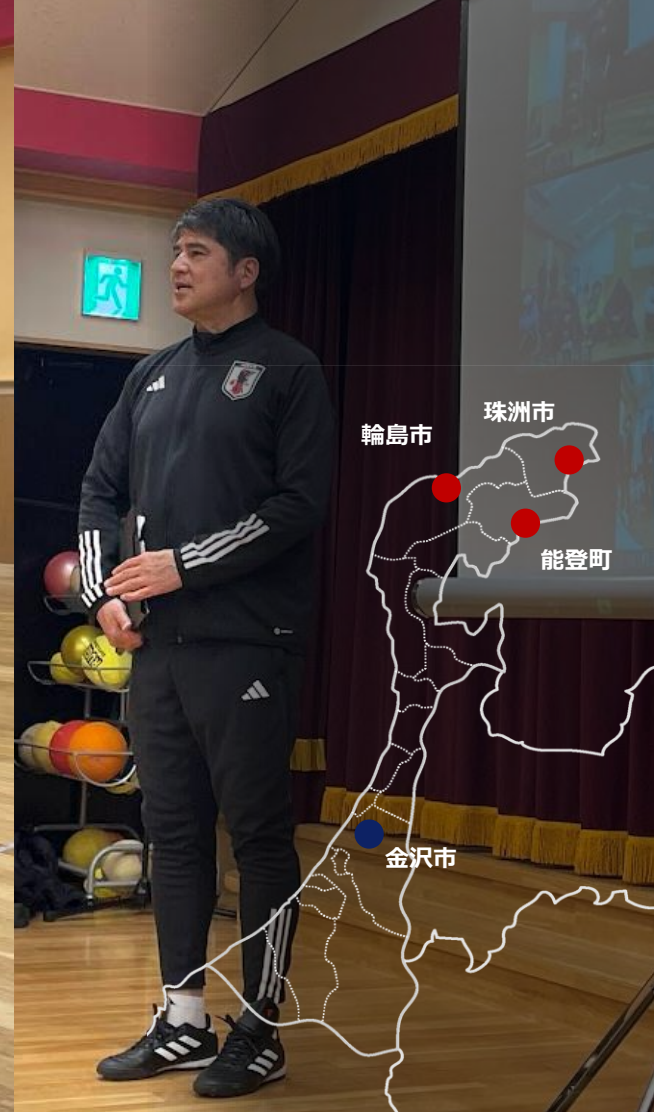
左から、松坂拓紀さん（テニス）、笹原龍さん（テニス）、永島昭浩さん（日本代表OB）、堀由美恵さん（ボディボード）



3/7



奥能登の小学生年代の3つのサッカーチームのある、輪島市、珠洲市、能登町と、JFA夢フィールドをオンラインで結び、元サッカー日本代表の永島昭浩さんの進行のもと、SAMURAI BLUE（日本代表）森保一監督とのオンライン交流を行った。松本良一フィジカルコーチによる身体を動かすプログラムも実施。子ども達は元気に身体を動かし、その後は積極的に手を上げて森保一監督へ質問をしていた。この時期は、まだ広い範囲で断水も続いており、能登半島を離れて遠方へ避難している家庭も多く、オンラインで久々にチームメイトと顔を合わせる子どももいた。



● 3/14

訪問先の保育所等や小学校に在籍する未就学児や小学校2年生以下のキッズには、サッカーボールやチャレンジゲームの冊子が入った「JFAスターキット」のリュックサックを合計約2,000セット、サッカー交流時に贈呈した。
また、株式会社ポケモンのご協力により、JFAキッズアンバサダーのストライカーポケモン「エースバーン」が、全15か所の保育所等を訪問した。





宮本専務理事（現会長）は、3月15日に輪島市中心部を視察。輪島市サッカー協会関係者の案内で、仮設住宅団地建設のために人工芝の撤去が進められていたフルピッチ1面と少年用1面のマリンタウン競技場や、建物に大きな被害があったサンアリーナを視察。また、地元住民の方から、輪島朝市の火災現場を案内していただきながら、被災地の状況についてお話を聞いた。



輪島市

金沢市

2024

● 4/17

能登町
小木保育所



能登町でも、4月の時点で断水などの影響が残っている地域もあったが、訪問可能なすべての保育所へトップアスリートが巡回し、一緒に身体を動かしながら子どもたちと交流を図った。左は、日本トップリーグ連携機構から派遣された元ソフトボール日本女子代表の坂井寛子さん、右は元なでしこジャパン（日本女子代表）海堀あゆみさん

2024

● 4/18

能登町
うしつ保育所

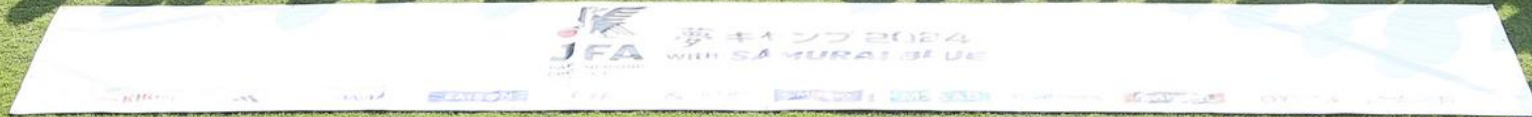


4/30

子どもたちのこころのケアは、体育館やグラウンドが損傷している中でも、安全に配慮しながら続けた。中学校では、身体を動かしてサッカーと一緒に楽しむだけでなく、訪問したアスリートの過去のつらい経験や乗り越えることができたきっかけなどを生徒へ語りかける場面もあった。左から、元サッカー日本代表田中隼磨さん、ツエーゲン金沢クラブキャプテン廣井友信さん

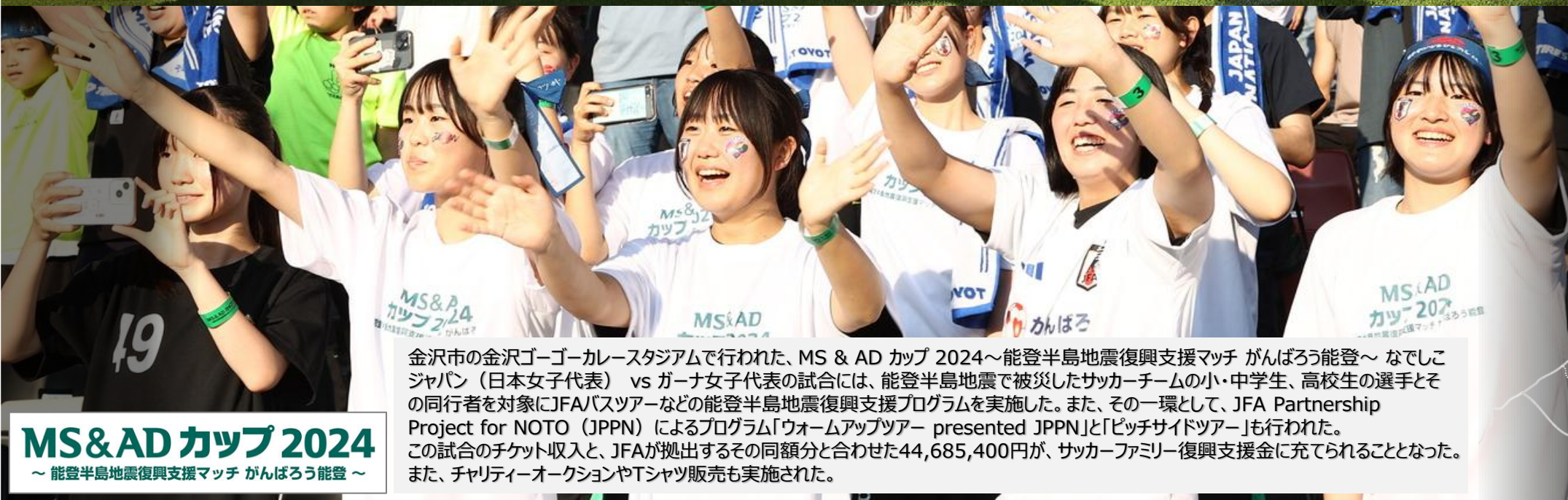


6/1



夢キャンプ 2024
with **SAMURAI BLUE**

日本サッカー協会（JFA）とパートナー企業は6月1日、高円宮記念JFA夢フィールドに能登半島地震で被災した地域の小学生チームを招待し、「夢キャンプ 2024 with SAMURAI BLUE」を開催した。イベントには70人の子どもたちとSAMURAI BLUE（日本代表）の選手6人も参加し、青空の下、サッカーで楽しく汗を流した。



金沢市の金沢ゴージャススタジアムで行われた、MS & AD カップ 2024～能登半島地震復興支援マッチ がんばろう能登～ なでしこジャパン（日本女子代表） vs ガーナ女子代表の試合には、能登半島地震で被災したサッカーチームの小・中学生、高校生の選手とその同行者を対象にJFAバスツアーなどの能登半島地震復興支援プログラムを実施した。また、その一環として、JFA Partnership Project for NOTO（JPPN）によるプログラム「ウォームアップツアー presented JPPN」と「ピッチサイドツアー」も行われた。この試合のチケット収入と、JFAが拠出するその同額分と合わせた44,685,400円が、サッカーファミリー復興支援金に充てられることとなった。また、チャリティーオークションやTシャツ販売も実施された。

MS&AD カップ 2024
～ 能登半島地震復興支援マッチ がんばろう能登～

7/15



「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」は、5月から能登町、輪島市の門前地区と輪島地区に続き、珠洲市で、避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされている方が多い珠洲市で、人々の運動不足解消や地域コミュニティ維持のきっかけづくりのニーズがあり開催。走らないサッカー「ウォーキングフットボール」で楽しく交流できる機会を創出した。宮本会長、SAMURAI BLUE（日本代表）森保監督も参加し、中学校のグラウンドに建設された仮設住宅団地のお年寄りも参加し、交流を図った。

珠洲市

金沢市

8/21-23



能登半島地震によって従前の活動が困難になっている石川県輪島市の中学2年生80名を東京都文京区に招待し、さまざまなアクティビティを実施。これは『JFA×文京 Dream Project』の第2弾「街と能登の応援フェス」として企画したもので、思う存分スポーツを楽しむことで前向きな気持ちになってもらいたいと「復興祈念スポーツ交流会」を東京ドームで開催。元日本代表OB・OGと日本財団 HEROsから11名のゲストを迎え、文京区の子どもたちとともに追いかけ玉入れや長距離シュート、ムカデ競争、まぜこぜリレーといった種目でチーム対抗戦を実施しました。喜んだり悔しがったりしながら、大いに盛り上がった。

また、輪島市の中学生は滞り期間中にJFAこころのプロジェクト「夢の教室」や、職場体験学習、読売ジャイアンツ対広島東洋カープ戦観戦などのプログラムを楽しみ、最終日には、森保一日本代表監督がサプライズで登場し、輪島市の中学生に激励のメッセージを送り、全員とハイタッチして締めくくった。

右：輪島市立門前中学校と東陽中学校の生徒への夢の教室を担当する夢先生の小林弥生さん
左上：東京ドームで行われたスポーツ交流会 左下：JFAハウスでサプライズ登場した森保監督

10/15



『FIFAワールドカップ26 アジア最終予選(3次予選)』が行われた埼玉スタジアム2002の会場で、JFA能登半島地震サッカーファミリー復興支援金の募金活動を実施。サッカー元日本代表の永島昭浩さんや中村忠さんも参加。このほか、天皇杯全日本サッカー選手権大会の決勝や各会場、10月のMIZUHO BLUE DREAM MATCH 2024などでも募金活動が行われた。



さいたまスタジアム2002

© JFA

10/20

SAMURAI BLUE(日本代表)の森保一監督は、10月20日、21日の両日、能登半島地震と豪雨災害の被災地の一つである石川県輪島市を訪問。災害ボランティア活動や子どもたちとの交流を行った。初日は輪島市町野地区を訪問。JFAリスペクト委員会防災・復興支援部会の部会員であり、災害NGO結の前原土武さんの案内で、まず床上浸水の被害を受けた住まいの片付けに参加（写真右）。また、8月にウォーキングフットボールのイベントを行うなど、地域の復興の先頭に立ってきた、町野復興プロジェクトの山下祐介さんやメンバーの皆さんから、地域の現状についてお話を聞くとともに、「困難な状況でも明るい未来を思い描いて将来に向かって進んでほしい」と、力強いエールを送った（写真左）。



地震発生から1年半の活動報告 2024

輪島市
まちの保育園

能登町
柳田中学校

10/21

2日目は、輪島市町野地区の「まちの保育園」を訪問。この保育園は能登半島地震後、東陽中学校の体育館の一室を利用して再開していたが、9月の豪雨災害で浸水する被害があった。園の先生や地域の方々が中心となって片付けを行い、保育を再開することができた。森保監督は、JFA復興支援特任リーダーの石川県サッカー協会北野孝一 会長とともに、7人の子どもたちと一緒に思い切り身体を動かして遊んだ。

その後、能登町の柳田地区へ移動し、能登町立柳田中学校と能登町立柳田小学校を訪問。柳田中学校には輪島市立東陽中学校の生徒が、柳田小学校には輪島市立町野小学校の児童が、スクールバスを使って登校し、市町を越えて一緒に教室で学んでいる。柳田中学校では、能登半島地震の影響で体育館が使用できない状況が続いており、ランチルームに両校の生徒が集まり、森保監督の話に耳を傾けていた。

柳田小学校では、体育館に両校の100名を超える児童が集まり、一緒に身体を動かして、最後は学年ごとに、能登半島地震後にJFAから学校へ寄贈したミニゴールとサッカーボールを使って、ミニゲームをして汗を流した。この小学校には、地震により被害を受けた柳田保育所も一時的に移って保育が行われており、園児たちも顔を出して一緒に身体を動かしていた。



● 11/14

11月以降は、学校・園への訪問を再開。この日は、珠洲市立大谷小中学校を、元サッカー日本代表の久保竜彦さん、ハーフナー・マイクさんと、日本財団HEROsの小西美加さん(元女子プロ野球選手)が、珠洲市立大谷小中学校を訪問した。地震発生前は40人を超える児童や生徒が通っていたが、現在通学しているのは5人のみとなっている。校庭には仮設住宅が建てられ、体育館の半分はまだ避難所として使われおり、学校の周りには、倒壊したままの家屋や土砂崩れで寸断されたままの道路も多く残っている状況だった。

珠洲市

金沢市

元サッカー日本代表の久保竜彦さん、酒井友之さん、日本財団HEROsから元ラグビー日本代表の大西将太郎さん、元ハンドボール日本代表の土井レミイ杏利さんが石川県輪島市の門前中学校を訪問し交流。その後は、同市七浦地区での災害ボランティア活動に参加。

門前中学校は、9月の豪雨で楽しみにしていた体育祭が中止に。また現在、門前東小学校には地震による被害があり、門前西小学校とともに門前中学校に移って学んでいる。

交流会は前半に、二校の小学生たちも参加して長縄跳びや、かごを背負っての玉入れなどを中学生と一緒にいき、みんなが笑顔になれる時間とまった。後半は中学生だけでドッジボールとサッカーの真剣勝負。ファインプレーが飛び出したり、笑い声が響いたり、終始盛り上がりを見せた。

最後は、先生やアスリートと中学生がサッカーでの対戦となり、興奮は最高潮に達した。生徒たちにとってトップアスリートと直接ふれあい、一つのことに取り組む体験は、忘れられない思い出になった。

交流会終了後、4人のアスリートが中学校から約20分ほどの七浦地区へ向かい、被災地の泥のかき出し作業に参加。水害の片付けは、重機が入れないところも多く、災害ボランティア活動の必要性を改めて認識した。

11/20



12/5

元サッカー日本代表の山田卓也さん、安田理大さん、日本財団HEROsの多田野彩香さん、中野源一さんが、能登町立松波小学校を訪問し、児童たちとスポーツを通して交流。
松波小学校は校舎が被災したため、現在小学生は松波中学校の敷地に建設された仮設校舎で学校生活を送っている。10月に完成したこの仮設体育館でアスリートたちがスポーツ交流を行い、前半45分は低学年32名、後半45分は高学年37名の児童の皆さんに参加いただいた。まず、「だるまさんが転んだ」をしながらウォーミングアップ。空手の型を体験したり、フリスビーを使って2人組で何回パス交換できるか競争。児童たちは初めて行うことにも一生懸命トライし、終始楽しそうに体を動かしていた。



12月19日と23日は、輪島市立輪島中学校を訪問し、クラスごとに全生徒と交流した。初日は、元サッカー日本代表の金田喜稔さん、元サッカー日本女子代表の山根恵里奈さん、日本財団HEROsの坂井寛子さん（ソフトボール）、井上鷹さん、吉田冬優さんが訪問。また、この日は、日本プロサッカー選手会にもご協力いただき、ザスバ群馬の小柳達司さん、藤枝MYFCの永田貴太さん、FC大阪の藤田雄士さんにもご参加いただいた。2日目は、元サッカー日本代表の永島昭浩さん、久保竜彦さん、安田理大さん、ハーフナー・マイクさんが訪問した。2年生は、8月に東京都文京区で行われたスポーツ交流以来の再会となった。



輪島市

金沢市

12/23



輪島市の中心部にある6つの小学校は、すべて建物の被害が大きく、校舎が使用できなくなった。地震発生後は輪島高校の校舎を利用し、さらに4月からは輪島中学校へ移って授業を受けていたが、夏に河井小学校の校庭に仮設校舎が完成し、同じ場所で授業を受けている。

1月16日と17日は、中西永輔さんと安田理大さんが訪問し、3年生から6年生全員と身体を動かして楽しく交流した。また、16日の夜は地震後活動場所が限られてしまっている「輪島サッカークラブジュニア」が臨時的練習場所としている同校体育館下のピロティを訪れ、練習に参加して選手たちを激励した。



学校訪問
まとめ映像



輪島市

金沢市

2024

2025

2/28



2月28日から3月1日にかけて、新たに開始された内閣府の被災者支援団体向け交通費補助事業を活用し、SAMURAI BLUEのチームバス（JFA's DREAM）を用いた、職員有志による災害ボランティア活動を行った。現地で活動するボランティア団体と連携し、輪島市の南志見（なしみ）地区と、門前地区において、豪雨災害語の泥かきや住宅の片付けなどを行ったほか、輪島市町野町、珠洲市三崎地区、能登町柳田地区などで被災者のお話を聞いたり、バスの前で記念撮影を行うなどし交流を図った。



ボランティア活動
まとめ映像



輪島市

金沢市

地震発生から1年半の活動報告

2024

2025

6/12

6月には、SAMURAI BLUE（日本代表）佐野海舟選手と、なでしこジャパン（日本女子代表）宝田沙織選手が活動に参加し、被災地の学校を訪問して子どもたちや地域住民の皆さんと交流した。また、職員等のボランティア活動のために、SAMURAI BLUEのラッピングバス（JFA's DREAM）を3回運行した。



ボランティア活動
まとめ映像



能登町

能登町

金沢市



サッカーを輪島で出来ないから
金沢に残るか輪島に残るか家族ですごい悩んで

支援の輪を広げよう | がんばろう能登！サッカーファミリーのチカラをひとつに！

3/7（木）能登地方の小学生年代のサッカークラブ3チームを対象に、オンラインイベントを行いました。
元サッカー日本代表の永島昭浩さんMCのもと、子供達は元気に身体を動かし、積極的に手を上げて森保監督へ質問
をしていました。被災地の状況と合わせて、是非ご覧下さい。（2024年3月15日配信）



皆さんのこども応援してますので 元気でお過ごしください

能登半島のいま 森保監督、現地へ | がんばろう能登！サッカーファミリーのチカラをひとつに！

2024年1月に発生した令和6年能登半島地震を受けて、日本サッカー協会（JFA）は復興支援プロジェクトを立ち上げて
支援活動に取り組んでいます。9月の記録的豪雨による被害もあり、能登半島への継続した支援が求められています。
今回、森保 一 SAMURAI BLUE（日本代表）監督が10月20日、21日の両日、現地訪問した様子をお届けします。
（2024年11月28日配信）



今後の主な活動予定

8月
文京区

JFA×文京 Dream Project「街と能登の応援フェス」復興祈念スポーツ交流を、8月に輪島市の中学校2年生を招待し、文京区で開催予定。被災地で実施が困難になっている職場体験学習等の機会を、地域との連携の中で提供していく。

10月以降
各地

試合会場における被災者への連帯を示す取り組み

10月以降に行われる、SAMURAI BLUE（日本代表）の試合等を用いて、能登半島地震の被災地との連帯を示す復興支援のための取り組み（復興支援マッチ）や、能登半島地震の経験を踏まえた今後の防災啓発活動等を実施予定。また、各種試合会場における募金活動や、チャリティーオークション等も継続して開催予定。





Thank you.